



ぶどうのささやき

6号

2010年
1月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

◆ 横浜経済の活性化に向けて ◆

横浜市経済観光局長

渡辺 巧教（わたなべ かつのり）

新年、明けましておめでとうございます。

本年も、みなさま一人ひとりが健やかにご活躍され、また産業クラスター研究会がご発展されることをお祈り申し上げます。

研究会のみなさまには、本市の「経済の新たな担い手創生事業」において、協働事業をすすめていただいております。中小企業が抱える課題やニーズが多様化する中、産業支援型NPOとして地域経済の活性化に向けた活動を、熱意をもって進められていることに感謝いたします。

さて、市内経済は、とりわけ中小企業を取り巻く状況や雇用情勢など、依然として予断を許さない厳しい状況が続いております。私は昨年4月の経済観光局長着任以来、中小企業の資金繰りの円滑化や市民の雇用の安定など、緊急経済対策を最優先に、全力を挙げて取り組んでいるところです。

同時に、不況の先を見据え、付加価値の高い技術・製品の開発や独創的な知的財産の活用を促進し、中小企業の競争力を高めるための施策を推進しています。



さらには、新たな社会的課題をビジネスチャンスと捉え、環境やライフサイエンス分野の新産業創出に向けて、成長分野の振興に重点的に取り組んでおります。

本年の10月には、羽田空港の再拡張・国際化が実現し、11月にはAPEC首脳会議が開催され、横浜の国際的な知名度を上げる大きなチャンスが訪れます。この絶好の機会を活かし、さらなる国際コンベンションの誘致や、海外とのアクセス利便性向上を起爆剤とし、市長のトップセールスなどにより、国内外からの企業誘致を積極的に進め、横浜の将来の発展につなげていきたいと考えております。

産業クラスター研究会は、市内各所に出向かれて中小企業の課題やニーズを掘り起し、対応されています。厳しい経済状況の中で、まさに、民の力で行政では手の届かない個々の中小企業の実情に応じたきめ細かいサービスを実践されており、その活動は大変有意義かつ貴重なものです。本年は横浜にとって、不況を乗り越えて新たな一步を踏み出すための大切な一年であり、研究会が地域経済の活性化の担い手として、益々充実した活動を推進されることを心から期待しております。

『横浜経済の新たな担い手創生事業とは？』

産業支援型NPOをはじめとする経済の新たな担い手のノウハウ等を活用して、中小企業支援、ベンチャー・創業支援などの経済活性化事業を協働により推進することで横浜経済の活性化を図るとともに、事業実施を支援することで担い手の成長・発展を促すことを目的としています。

クラスタとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

新春の ご挨拶

… 地域企業に寄り添って …



理事長 木下 武

本年の活動目標

明けましておめでとうございます。産業クラスター研究会も本年満6周年を迎え、新たな飛躍を遂げる段階に入ります。これまでご支援をいただきました関係者のみなさまに改めて感謝申し上げますとともに、なお一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



昨春、理事長を含め大半の役員が交代する新体制になりましたが、一昨年のリーマン・ショックに端を発する不況や円高の波を被り、昨年は中小製造業のみなさまにとっては大変厳しい一年でありました。みなさまのご苦労とは比べるべくもありませんが、私たちの活動にとっても厳しい一年でした。今年もまだ不況脱出の糸口が掴み難い状況ではありますが、地域経済に密着した活動を行い、少しでもみなさま方のお役に立てればと念じております。

さて、本年の活動方針ですが、最優先として昨年に引き続き法人会員とのさらなる関係強化に努めていきます。具体的には法人会員を定期的に訪問し、新たなニーズの掘り起し、新製品の開発、販売体制の支援強化に役立てたいと存じます。みなさま方のご意見・ご要望に基づいた内容をさらに吟味・理解し、本年の活動指針に織り込みます。まず昨年7月と10月の経営セミナー開催、12月の経営者交流会（ミニ講演会）な

どの結果を分析し、充実した新企画を準備するとともに、従来の支援内容（特許調査、ISO取得、翻訳業務、HP作成、住宅リフォームなど）の充実に努めてまいります。

次に、行政機関、大学、各種団体との関係構築をさらに深めていきます。横浜市との協働事業は終了しますが、これまでの経験と実績を基に横須賀・三浦地区、横浜市内の中小企業と他県企業との仲介役など、また、横浜市内の法人会員拡大活動においても金沢区から戸塚区、栄区、港北区などに活動範囲を一段と広げたいと思います。また、大学との産学連携も関東学院大学様との間で具体例が開始されましたので、法人会員への積極活用をPRしてまいります。また、諸先輩の人脈などから県の商工労働部、横浜市の経済観光局・共創推進事業本部（ECO2関連）、さらに横須賀・三浦地域県政総合センター、横須賀市などとの情報収集と連携強化を図ってまいります。

一方、運営管理の合理化の強化を目指していますが、昨年運営規定の一部改定・成文化を行いスリム化を実施しました。本年は財務体制強化の一環として認定NPO取得の検討を開始し、法人企業からの賛助金拡大などに道を開きたいと考えています。

最後になりましたが、当研究会のミッションにご賛同され社会貢献の志がおありの方、是非ともご入会下さるようお願いし年頭のご挨拶といたします。

【歳時記】年の瀬、年の初め、歳を重ねるにつれ脳裏に刻まれた記憶がふつと蘇る。

子供のころ、蒸籠から吹き出す湯気、蒸し上がったもち米の香り、威勢よく打ち下ろされる杵の音。女子供は急ぎ熱い餅を丸める。楽しい師走の一大行事。年が明けると姉たちが嫁ぎ先から家族揃ってやって来る。例年慣わしの賑やかな正月。

年経て、廿代末から頻繁になった海外出張。昼間は五十度を越える灼熱の西オーストラリア北部、土漠の鉄鉱山での奇妙な真夏のクリスマス。

いつももお世話になる家族帯同駐在員へ日本出張お土産に、三十時間かけて持ち帰った新巻の味、少々酸っぱくなったが、それでも喜んでもらったサウジアラビアのほろ苦い師走の思い出。

朝九時によくやく明るくなり、午後三時には灯が点るベルギーの冬。闇にコツコツと靴音を響かせ次々人の集まる、しんしんと冷える石の大聖堂のクリスマスミサ。

深夜、氷を踏み砕きながらアウトバートを駆けてドイツ出張から帰宅した厳冬の頃。よくぞ事故も起こさず無事であったと時々思い出す。

駐在明けの年末、近くの高台から久し振りに眺めた、江の島に懸かる雄大な夕焼け富士、心休まる日本を改めて実感した師走。

大晦日、紅白の喧噪がふつと途絶え、突然の静寂に遠く近く聞こえる豆子、葉山の寺の鐘。

良き年を 迎へと告ぐや 除夜の鐘

年明けはまず近くの御霊神社に参詣。

今年はずいぶん近くなる年なのであろうか。猛虎の勢いで景気回復して欲しいと祈る。(全)

部会活動紹介

★企業支援事業部会★★★★

特許・実用新案などの出願動向を知るニーズは益々高まり、法人会員A社から仕入れ先や競合他社の出願状況の調査依頼を受けて昨秋に報告しました。

また、法人会員B社からは過去に締結した契約書の調査依頼がありました。相手は米国の中小企業で、検索は難航しましたが、ある検索ツールを用いて調査中です。

経営セミナーについては、個人会員のS氏が講師になって昨年7月と10月に実施しました。これは法人会員への支援強化の一環として実施したもので、さらに充実した企画を実行に移していきたい。

ISOについては法人会員C社に対してISO27001の予備教育を昨年4月から毎週月曜日に実施し、本年2月には認証取得の予定です。

★ホームページ事業部会★★★★

他のNPO法人との連携を図る方針の中で、このたびNPO法人シニアSOHO横浜・神奈川(略称SVYK)と提携しました。当会が請負ったA社の30周年記念行事の一環としてのホームページ開設業務およびコンテンツ制作を委託して12月末に無事納品しました。

また、自社ホームページを社員が行うというA社の意向を受けて同社に出向いて研修を行いました。

★海外関連事業部会★★★★

海外ビジネス激減のあおりを受け、これまでの事業の主流であった海外向け技術資料の翻訳業務は打撃を受けましたが、米軍入札やその受注後の業務に必要な技術報告書の英訳は、即応体制を改善して依頼主にご満足いただいています。

米軍入札に関する業者支援では、従来からの支援内容を継続する一方、新たな支援体制を構築した横須賀商工会議所への協力についてもさらなる効果的な方法を検討しています。

最近海外企業の信用調査方法についての相談があり、JETROでの調査、ウェブサイトから米国データバンクへのアクセスなどで必要なデータを取得し、依頼主に提供することができ満足いただきました。

★横浜事業部会★★★★

横浜北工業地区を中心に会員募集活動を展開中。業種により若干異なる面もあるが、中小製造業の方々を訪問して出てくる声は、とにかく注文が欲しいという切実な願い。新年を迎え今年は皆さまの展望が開けることを心より望みます。

そのような期待も込めて、昨年秋には横浜市主催による「横浜ライフデザインフェア2009」が開催され、私たちも参加し私たちの活動をPR致しました。



★産官学連携支援部会★★★★

このたび関東学院大学との間で産学連携案件が成立し、当産業クラスター研究会の法人会員であるH社の抱えている問題解決のための会議が開催されました。去る10月8日、第1回打ち合わせが関東学院大学で行なわれ、企業側から抱えている問題を説明、いろいろなコメントをいただきました。その場で結論が得られたわけではありませんが、違った立場から見た技術的提案は企業にとって有益なヒントを得たものとおもいます。提案された課題を会社に持ち帰り、社内で検討整理して次回報告、さらに問題解決に進むこととなります。一回ですぐに解決できるものではなく、企業にとって大学との関係を深めることが出来ればそのメリットは非常に大きいものであります。

当部会は法人会員と大学との間に立って法人会員の抱えている技術的問題解決に限らず将来の企業像の設計、大学におけるシーズの活用も含め支援します。法人会員の方はどうぞ遠慮なくご相談ください。

★住宅リフォーム事業部会★★★★

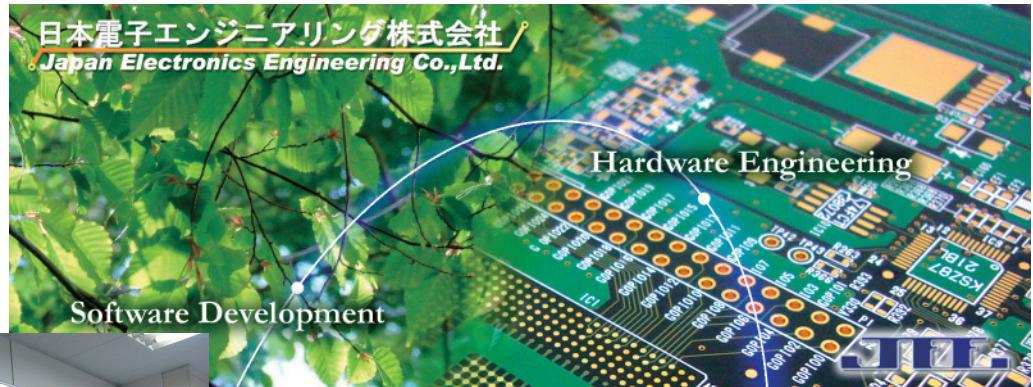
発注者の依頼を受けて当会会員である建築士が契約から工事完成までの管理(目付け役)をおこなうものです。12月初めにハイランド(横須賀市)のリフォーム工事の「目付け役」が完了しました。

また、12月17日(木)に浦賀コミュニティセンターで、午後3時から5時まで相談会を開催しました。このセミナーは横須賀市消費生活センターとの共催で実施しています。

法人会員紹介

日本電子エンジニアリング株式会社

〒239-0847 横須賀市光の丘 8-3
YRP ベンチャー棟 213号
TEL 046-839-4623/ FAX 046-839-4624
<http://www.j-e-e.co.jp>



わが社は、1977（昭和52）年の創立以来、プリント基板設計の専門メーカーとして、事業を進めてきました。

当時はまだパソコンはなくオフコンの全盛時代で、プリント基板の設計はCADシステムもなく手作業でおこなっていました。自動での設計を脳裏に入れつつ、プリント基板の自動設計システムを作ることが目標でした。

1984（昭和59）年に、CADシステムを導入し、手作業のオートワークからCAD設計へと移行しました。その間、市場の電子部品もディスクリートから表面実装へと変化し、設計内容もより複雑なものになりました。そのころからプリント基板自動設計システムの作成を断念し、現在のような対話型CADでの設計に方向転換しました。現在では、処理情報量の増大や高速化にともない、設計ツールとして活用する体制も確立してきました。

高密度配線基板はもとより、難易度の高い設計をおこなってきた過去の経験を生かし、設計・基板作成・実装等、製品完成全般をカバーできる体制を整えました。また、基板制作・実装のコスト低減の提案や豊富なCAD設備により、デジタル基板、アナログ基板、携帯電話や通信用の高周波基板などセット基板の設計も可能にした回路設計からFPGA（フィールド・プロ

グラマブル・ゲートアレー）製作をおこなうことで製品開発業務のできる企業として追求してきました。

ソフト部門は1997（平成9）年より立ち上げ、移動体通信における移動体通信の端末/基地局の機能評価、性能評価、を主におこなっております。また、それらに関連して、評価ツールの開発や将来モデルの仕様検討に際し、IT分野の最新技術の調査・解析を手掛けており、他ネットワーク分野ではLinux OSを用いての組み込み、オペレーションシステムの開発、関連した性能測定用試験ツールの、開発をおこなっております。

すべての分野でよりいっそうの品質管理が必要になり、昨年は産業クラスターさんに講師をお願いして、ISO9001を取得しました。

今後とも社員一同優れた品質の製品を作るよう頑張る所存です。

【事業内容】

各種ソフトウェアの開発。端末、基地局のソフトの開発。サーバー構築、ネットワーク構築。プリント基板の設計と製造。



整った設備で、伸び伸びと作業をする社員

人々人々

NPO 法人 ヴイエムシイ

理事長 鈴木 隆さん

ボランティア活動は“働楽”!?

第68・69代総理大臣の大平正芳氏が、好んで色紙に書かれたという「着々寸進、洋々万里」という言葉が好きです。とおっしゃる鈴木隆さん。「働楽（働き、そして楽しむ）」をキーワードに、社会貢献をしながら長いシニアライフを楽しもう、と集まった60数名の束ね役として2009年の6月、理事長に就任されました。「“働楽”とは言い得て妙、いいですね」と、切り出すと「いいでしょう。先輩が何年も前から考えていた“大いに働いて、大いに楽しむ”という持論を拝借しました。退職して自宅にジッとこもっているよりは、明日死ぬかも知れない危険を冒しながらも、現役時代とはひと味もふた味も違った場を踏んでみないか、ということをご彼から教わったのです」

老舗アパレルメーカーの営業本部長を最後に退職。「ゴルフ三昧だった私の背中を押したのは家内でした。横浜市のベンチャー・マネージャー制度に登録してください、という広報を見て、家内が勝手に用紙を貰ってきて、あなたにできることは、こんなことしかない



でしょ、ということ、書き込んで提出したのが、VMCYとかかわる切っ掛けです」。

シブシブ首を突っ込んだとおっしゃるセカンドステージ。いつの間にか会にとっては、なくてはならない中心メンバーになっています。「いやあ、現役時代並みの、それ以上の忙しさですよ」とビッシリ書き込まれた手帳をめくりながら、結構いまを楽しんでいらっしゃる。

現役時代には会社の再建を任せられ、人員整理をせざるを得なかったことが、私の人生で一番厳しい出来事でしたと、言葉を選びながらの話し振りに、懐の深さを感じられます。

着々寸進、洋々万里「私も日々努力せねばいかんなあ」と最後に。

■ 第2回経営セミナー（社員教育研修会）

不況を脱出！

会社を強くするための営業

講師 鈴木 清文さん



昨年の7月29日（水）に第一弾として、横須賀産業交流プラザで、当会の前副理事長の鈴木清文さんが、「不況脱出！注文とるコツ教えます」と題して講演しました。参加者のアンケートやご意見が、非常に良かった、さらにより深く第二弾をやって欲しいとのご要望により、10月28日（水）に前回と同じ会場で開催しました。

テーマの核心「不況脱出の心構え」では、不況の感じ方が甘い、もっと必死さをもって、指示待ちではなく、自らが切り開くという強い信念を持って、あらゆることを考え行動せよ、と熱っぽく語られました。

「新規開拓の仕方」では、情報をしっかりキャッチし、相手の立場に立った情報を盛り込んだ提案をする

こと。また、メールは便利だが、安易に使うな、相手の了解を得てからという配慮が欲しいの一言は、当たり前のことですが、なかなか気付かないことです。さすがに筋金入り、人を動かす大事なポイントだと感じ入りました。

今日のセミナーの圧巻「倒産寸前の会社を再建させた具体例」での、会社の問題点を明確に分析し、納入先へのクレーム対策を徹底的に行い、信頼回復してゆく過程は、鈴木さんの熱血そのもののドラマであり、社内外を一手に掌握していく内容には、経営者はじめ参加者が心を打たれ、大変参考になったのではないのでしょうか。

質疑応答では、「今日営業に出る前にこの講演を聞いていれば、事前準備が十分にできて、より上手かったです」とありますが、明日から大いに活用させていただきます」などの発言があり、具体的な内容の質問で時間をはるかにオーバーするほどでした。

【経営者交流会と会員集会・忘年会】

馬来 義弘さんを囲んで

平成21年12月3日(木)
18:00～21:00
北久里浜駅前 一升屋本店



好きなアルコールより、まずは「勝ち組」を目指してメモを!

クラスター設立当初からの懸案事項だった法人会員トップ同士の交流を深める「経営者交流会」の第一回目が、12月3日、北久里浜駅前の一升屋本店で行われました。

当日は個人会員との交流をも兼ねて、神奈川県商工労働部顧問で前県産業技術センター所長の馬来義弘さんのお話をうかがいながらの忘年会もあわせ、例年とはひと味もふた味も深みのある密度の濃い会でした。

馬来義弘さんは民間企業で研究開発、経営企画等の経験をお持ちで、事例を交えて画像を使ってのお話は、説得力があり、興味ぶかく聞くことができました。

特に印象に残ったことを記します。

*経営者は結論を出すのではなく、「決心」することが求められている。

*企業に長期的な成功をもたらすのは、商品ではなく商品をつくるプロセスである。

*企業としての強みである技術を明確にし、その技術を継続的に育てること(民間企業の研究所にいたときのこと。コストカッターと言われたあのゴーン社長が着任され、研究費を削減されると覚悟したが、研究コストは投資だと言われた。そのときに研究した技術は、いま生きている)。

*同一業界だけでなく他業種の情報収集とその有効活用が重要。

*人材がいないと嘆く社長・上司は、部下を育てていないから。以上不十分ですが誌面の都合で割愛します。

忘年会では、初めて会った法人会員と個人会員が、終始旧知のような和やか雰囲気でお話、アツという間の3時間でした。

※右の画像は講演資料の一部です。

本日の講演内容

「勝ち組」中小企業を目指して
一経営者として心がけて欲しいこと

- I. 経営者としての留意点
- II. 技術開発を進める上での留意点
- III. 人材育成面での留意点

経営者としての留意点(1)

企業としての将来の夢を持ち、その夢を部下に語って欲しい

→社員に危機感と高遠な理想を与えるのが経営トップの役割

- リーダーとは自分のしたいことを人にやらせる人のことではなく、自分のしたいことを部下の人々にもしたいと思わせることのできる人

夢を実現していくために「正しい目標(値)」を設定して欲しい

- 夢を描いて、それを目標、計画としてきちんと設定することが最も大切
- 「正しい目標(値)」が設定できれば業務の6割は進捗している
- 「正しい目標(値)」の設定のための努力を惜しまないこと

- 低い目標(値)の設定は組織や個人の成長を阻害する罪悪

人材育成に手間とお金をかけて欲しい

- 人材が育たずして企業の継続的な発展は無い
- 神奈川県産業技術交流協会の「品質管理講習会(基礎課程16日、技術課程15日)」は人材育成には最適

- 人材が育たないのは経営トップの責任

技術開発を進める上での留意点(1)

経営トップが技術開発に期待している姿勢を見せること

- 経営トップの期待の大きさが技術者の一番のモチベーション
- 頻繁な現場でのディスカッション、技術開発資源の優先度アップ、等々

技術開発はニース(潜在ニース)指向で実施すること

- 必要は発明の母(ニース指向の技術開発は無駄!)
- 商品開発では顧客が言うニースは「真のニース」ではないことが多い
- ・有名なアイスホッケー選手の言葉「成功の秘訣はバックのあるところへ行くのではなく、バックの来ようとしているところに行くから」
- 企業の置かれている状況を良く理解した上でテーマ設定をすること
- ①結果が短期間・明確に出そうなテーマにまず着手(成功実績)
- ②品質向上・コスト低減テーマはバレット解析で効果大テーマにチャレンジ
- ③商品開発テーマは潜在ニース把握型で設定
- (特に②、③は競合他社の動きをきちんと考慮して目標設定)
- ハイテク技術も重要だがトランジショナル技術の競争力強化が最も重要

人材育成面での留意点(3)

仕事にプライオリティをつけよう指導して欲しい

- 常に自分の業務のプライオリティ(重要度×緊急度)をつけさせ、プライオリティの高い業務を後回しにしないよう指導していくこと
- ・ただ忙しく動き回っているのは心理学で言う「現実の逃避」
- ・「明日出来ることを今日やるな」、「雑用も仕事のうち」
- 部下を精鋭化するポイントは、常に「これまでより質の高い業務を新たに付加していくこと」(賽の河原の石積みはNG)

部下の「身体と心の健康」に最大限の配慮をして欲しい

- 経営トップの一番の役割は従業員の安全と健康を守ること
- 部下には「身体と心の健康」に常に気を付け、少しでも気になる状況が出てきた場合は早め早めに専門医に相談するよう指導を徹底すること
- 決して部下に頑張らせ過ぎないこと
- (SOSのサインは必ず出ているので早めにキャッチするアンテナ機能が重要)

編集人の放談

会

報誌発刊当初の目的は、当会の会員に活動状況をお知らせするということだったと思う。

◆会員や編集人の物事への取り組み方や考え方が、後記やコラムの中で見えるようにしてはいいかがか
◆巻頭記事も行政関係者ばかりではなく、文化人や経済学者などに
◆登場願えればと思う(佐)

活

動の事例、至近の活動予定などの内容をできるだけ多く記載したい◆講演会・研修会も、講師とテーマだけではなく、参加したくなるような呼びかけの表現が欲しい◆会員に対してこの会では何をするのか、何ができるのかを常に発信し続ける体制が大事ではないか(全)

会

あつての会報誌。HPの見直しも含めて、会の魅力をもっとアピールする方向を考えたい◆会員獲得の際にも活用される。従って不特定の読者にも読まれるわけで、広告掲載を早急に検討したい。特に法人会員紹介記事は格好の法人企業の広告になるのではないか◆新入会員紹介記事は名前を掲載するだけではなく、個人情報ということもあるので、詳しくある必要はないが、簡単な新会員

の支援可能な項目やキャリアなどを紹介したらどうか(羽)

気

楽に読める会報誌でいいのではないか。シビアな部分、つまり活動実績や内容などはホームページがあるのだから◆どちらかというとトピックス的なものなど◆会員の情報発信やテーマを決めて、それに対する読者からの意見を掲載するなどの企画も面白いと思う。会の動きが見える誌面づくりが望ましいのでは(徳)

会

報誌というものは、その会の広告の役割もあるわけだから、会のことがある程度読みとれるような誌面づくりが必要ではないか。そういう意味では5号までよく出来ていると思う(木)

当

初井戸端会議の目線でクラスターの活動内容を関係者にお届けし、且つ会員の交流の場になるような誌面づくり、ということだとターゲットした◆5号までを振り返ってこれでいいのだろうか、何か積み残しがあるのではと、いつも落ち着かなかつた◆案の定誌面に対する要求がチラホラ聞かれるようになった◆編集者放談会で、誌面に寄せる期待の大きいことがわかり、任の重さを感じている◆7号から誌面刷新の予定、乞うご期待!!(卯)

・・・事務局からのお知らせ・・・

- 住宅リフォームの相談会……2010年2月4日(木) 14:00～16:00 追浜コミュニティセンター南館
この相談会は横須賀市の後援をいただいている開催で、毎回盛況です。ご来場をお待ちしています。
 - 神奈川県の中小企業政策と知的財産活用セミナー
2010年2月18日(木) 15:00～17:15 横須賀合同庁舎 5階大ホール
横須賀市日の出町2-9-19 TEL:046-823-0210
 - I 神奈川県の中小企業政策 森 宏明氏 神奈川県商工労働部産業活性化課 副主幹
 - II 地球温暖化対策に関する計画書 池貝隆宏氏 神奈川県環境農政部環境計画課技幹
 - III 知的財産活用入門 渡邊功人氏 神奈川県特許情報活用支援アドバイザー
 - IV アイディア・発明の権利化 木下 武氏 産業クラスター研究会理事長
- *参加費:無 料
*後 援:神奈川県 横須賀市 横須賀商工会議所 (財)横須賀市産業振興財団

◆◆◆◆新会員紹介◆◆◆◆

【個人会員】

- ✳ 安藤 哲也……横須賀市長井在住 現在(株)アサヒリソース(再生資源回収業)に勤務。環境関連支援の活躍を期待します。
- ✳ 吉岡 郁郎……横須賀市池上在住 メリルリンチ・シティバンクOB。風力発電に興味があり。環境、金融関連でのご活躍が期待でそうです。
- ✳ 鈴木 裕子……横須賀市船越町在住 当会法人会員の太南工業で、営業、総務事務を担当、産業クラスター研究会の窓口でもありました。退社され改めて個人会員として入会されました。女性の入会大歓迎よろしくお願ひします。





地域経済活性化への 貢献を目指して活動をしています

会員募集中

ISO 認証取得支援

* 情報社会への対応と貴社の「情報資産」を盗難・流出・破壊等から守る ISO 27001「(情報セキュリティ管理体制)」。審査員の資格を持つ専門家が、貴社の ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) の構築と認証取得のお手伝いをします。

* その他 ISO 9001 (品質)、ISO 14001 (環境) 認証取得支援も可能です。

お気軽にご相談ください

横浜事業部会

中小製造業支援の紹介

横浜市との協働事業です!

* 生産関係支援、販売・仕入先紹介、社員教育、地方製造業者の紹介、技術開発・技術アドバイス等、どんな小さなことでも結構です。ご相談下さい!

海外関連事業部会

あらゆる海外業務を支援します。

* 翻訳、通訳、入札、技術提携、国際契約など実務経験豊かな会員にご相談に応じています。

* 貴社の海外事業部と思ってどんな小さなことでも結構です。ぜひご利用ください。

* 特に翻訳は貴社専用の用語集を拡充することで質の高さを維持して好評です。

* 仏語・中国語など英語以外についても相談に応じます。

お気軽に声を掛けておかけください!!

産官学連携支援部会

* 大規模な研究部門を持たない中小企業と多くの先端技術のシーズ(宝の山)を持つ大学、各種研究所間の仲人役として活動しています。

* 工業高校、高等専門学校のインターンシップにも取り組みたいと思っています。興味ある企業のみなさま気楽に声をかけて下さい。

このような活動に興味のある個人の方の参加も大歓迎です。ご連絡下さい。

* 特に横浜市南部地区、横須賀市北部地区、逗子市、葉山町などに在住の方々お待ちしております

ホームページ作成・更新支援

* 情報をいち早くキャッチして、より効率よく楽しくすごしましょう。貴社とあなたのホームページ作成・更新のお手伝いをします。

* すでにホームページをお持ちのでも、その更新に苦勞をされているケースが多く見受けられます。更新作業をご自分で行えるように、担当者の教育、更新作業の援助を目指しています。そのような業務に従事したいという個人の方もご連絡ください。

* ホームページ作成・更新のことならおまかせください。ご相談に応じます

ご連絡を

お待ちしております



発行：NPO法人 産業クラスター研究会 / 〒239-0847 横須賀市光の丘 8-3 YRPベンチャー棟 209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : int_cluster@ybb.ne.jp

横浜事務所 / 〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センタービル 7階 12号室

Tel : 045-633-6488 / Fax : 045-633-5183

E-mail : cluster88yokohama@ybb.ne.jp

東京事務所 / 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-25-21

渋谷 NTビル 3階 (株) リズム内

発行人：木下 武 / 編集人：卯月 文・赤羽孝之・大西洋治・大久保全勝・佐々木興吉・杉山徳義・堀家彰生